



「知りたい」「話したい」「できるようになりたい」が
生まれる授業づくり

～気になるあの子ども前のめりになる授業づくり～

令和8年（2026年）6月9日
箕面市立豊洲北小学校
校内研究授業・協議会
藤井陸平

「知りたい」「話したい」「できるようになりたい」が生まれる
気になるあの子ども前のめりになる授業は…



がある授業
がない授業
な授業





先生が引く？子どもが引く？



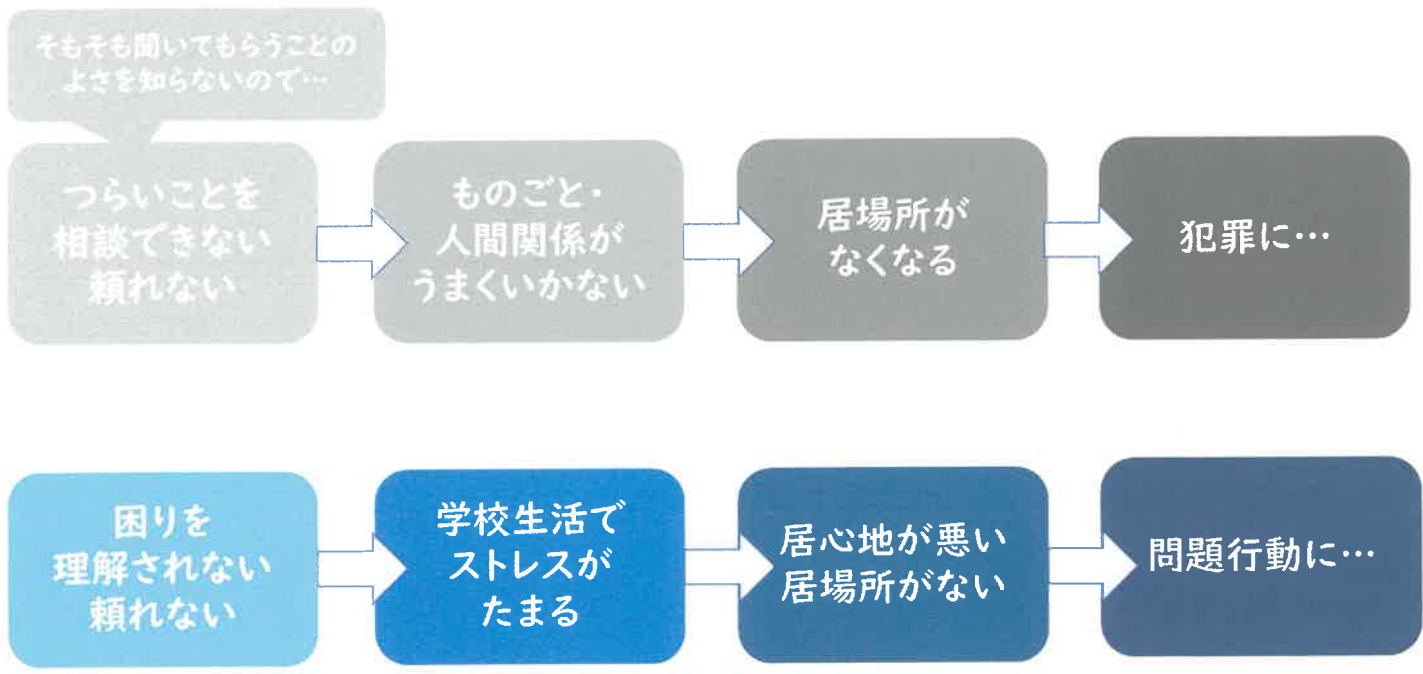
まとめのやり方は？

【研究テーマ】

知りたい！話したい！できるようになりたい！
～気になるあの子ども前のめりになる授業～



1. **言葉かけの視点**を少し変えてみる。



- 泣く
- 叫ぶ
- ぐちゃぐちゃにする
- やらない
- 逃げる
- 物にあたる
- 隠す・ごまかす

困った…
分からない…
むずかしい…
思い通りに
いかない…



- 手伝って
- 教えて
- もう一度言って
- 助けて
- ちょっと聞いて

援助要求しやすい言語環境づくりで授業の「脱落率」を下げる

って聞いてもなかなか手を挙げづらいですよね…
どんな言葉かけがいいか考えてみましょう!

分からない人?
困っている人?



あれ?って思った人

もう少しヒントほしい人

まだ悩んでる人

まだはっきりしていない人

まだモヤモヤしてる人

今はあてられると
こまったなあっていう人

困り・分からないを出しやすい言葉かけ

正解!よくできました
えらいね



〇〇さんの話を
聞こうとしていて
それが姿勢に表れているね

(考えは書いていないが)
文章をよく読んで
よく考えていたね

1つできてもまだ考えて
他の考えないか探してるね

努力・意欲・過程を認める言葉かけ

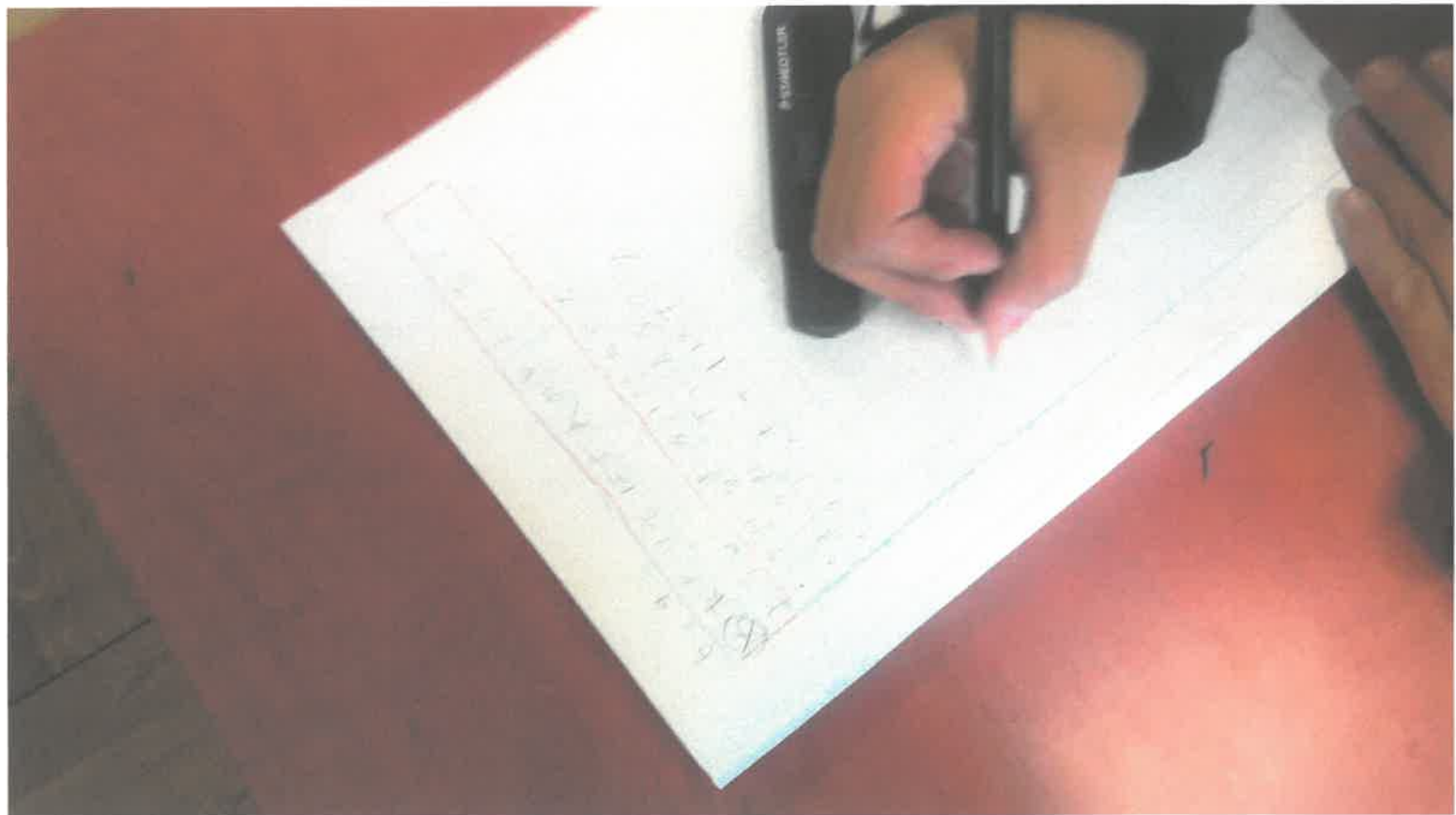
「主体的に学習に取り組む態度」の評価の改善イメージ

補足イメージ

現行	学びに向かう力・人間性等の目標と評価の観点 A	+	目標準拠評価の2側面 (事後的に整理) B	<p style="text-align: center; background-color: #00a0c0; color: white; margin: 0;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学びに向かう力・人間性等の目標を構成する要素が構造的につかみにくく、「主観」の評価観点(※)も分かりにくい ● こうした事情を踏まえ、「主観」の評価に当たっての2側面(※)が事後的に整理された ● しかし、目標準拠評価として、(※)とBを整合的に理解し、評価規準を設定することは多くの教師にとって困難との指摘 ● 結果、形式的な動機さばかりが強調されるなどの実態も生じている
	<p>学習指導要領の目標 (学びに向かう力・人間性等)</p> <p>言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う (例：小学校国語)</p> <p style="text-align: center;">↓ 感性・思いやりなどを除く</p> <p>評価観点 (「主観」)の趣旨 (指導要領の改善通知)</p> <p>言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉が持つ良さを認識しようとしていると共に、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている</p>		<p style="text-align: center; background-color: #00a0c0; color: white; margin: 0;">対応の方向性 (案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学びに向かう力・人間性等を構成する要素はあらかじめ整理 ○ 整理された4つの要素を踏まえて目標準拠評価ではなく、個人内評価として実施 ○ その上で、「初発の思考や行動」「学びの主体的な調整」「対話と協働」が特に表出した場合、各教科等の思考・判断・表現に「○」を付記する <p style="font-size: small;">(※) 自らの思考や行動のメタ認知や学習の自己調整などを含む</p>	
改善イメージ	学びに向かう力・人間性等の目標とそれを踏まえた個人内評価	←		4つの要素 (あらかじめ整理)
	<p>学習指導要領の目標 (学びに向かう力・人間性等)</p> <p style="text-align: center; color: red;">4つの要素を踏まえ適切に目標に反映</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>個人内評価</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">目標を踏まえ、教科等を横断した個人内評価として指導要録に記載。</p>		<p style="text-align: center; background-color: #00a0c0; color: white; margin: 0;">対応の方向性 (案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学びに向かう力・人間性等を構成する要素はあらかじめ整理 ○ 整理された4つの要素を踏まえて目標準拠評価ではなく、個人内評価として実施 ○ その上で、「初発の思考や行動」「学びの主体的な調整」「対話と協働」が特に表出した場合、各教科等の思考・判断・表現に「○」を付記する <p style="font-size: small;">(※) 自らの思考や行動のメタ認知や学習の自己調整などを含む</p>	



2. 授業観を少し変えてみる。



2年生 算数

1 つぎのもんだいに答えましょう。答えは1~4から1つえらんで、その番ごうを書きましょう。

(1) 四百六十二を数字でかきましょう。

豊北	全国
82%	95%

1 

2 462


3 


4 


6年

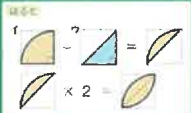
129 しほさんたちは、友だちの考えを説明しています。

面積が求められる図形

ア  $10 \times 10 = 100(\text{cm}^2)$

イ  $10 \times 10 \times 3.14 \div 4 = 78.5(\text{cm}^2)$

ウ  $10 \times 10 \div 2 = 50(\text{cm}^2)$

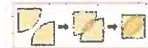
はるこ 



友だちの考えよう




- 図や式から、友だちの考えがわかるかな。
- 自分の考えと似ているところやちがうところはどこかな。
- 友だちの考えのいいところはどこかな。

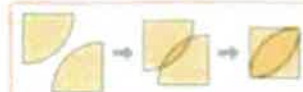
- 上の3人の考えの中で、自分の考えと似ているものはありますか。似ているところを説明しましょう。
はるこさんやみさきさんの考えは、あみさんの考えは図を使って説明!
- 上の3人の考えの中で、自分の考えとは考えを読み取って、説明しましょう。
- りくさんは、下のように考えたのですか、合わずに困っています。この考えを生かし、答えを求めるために、どこをおせばよい



りく  は  と  が重なった部分



ここから  と  を取り除くと考えて
 $78.5 \times 2 - 21.5 \times 2 = 114$
 114 cm^2 になると思ったけど...

りく  は  と  が重なった部分。



ここから  と  を取り除くと考えて
 $78.5 \times 2 - 21.5 \times 2 = 114$
 114 cm^2 になると思ったけど...

5年

算数のよき友 算数の目 ～大切な見方・考え方

わり算の性質に注目し、計算のしかたを考える

① はるとさんは、 $46.2 \div 2.8$ と商が等しくなるわり算を、下の㉑、㉒、㉓から選んでいます。にあてはまることばを答え。はるとさんの考えを使って、 $46.2 \div 2.8$ と商が等しくなるわり算を選びましょう。

- ㉑ $46.2 \div 0.28$ ㉒ $462 \div 28$
 ㉓ $4.62 \div 0.28$ ㉔ $4.62 \div 2.8$

わり算は、わられる数とわる数に同じ数をかけても、同じ数でわっても、は変わらない。例は、2.8だけを10でわっているから…。



② 右の $752 \div 1.6$ の筆算はまちがっています。その理由を説明して、正しく計算しましょう。

$$\begin{array}{r} 47 \\ 1.6 \overline{) 752} \\ \underline{64} \\ 112 \\ \underline{112} \\ 0 \end{array}$$



1.6の小数点を右にうつすのは、1.6を10倍しているからです。このとき、商が変わらないためには、752の小数点も右へ1けたうつして…。



小数のかけ算も、かけ算の性質を使って考えたね。

「わり算の世界を広げよう」の学習をふり返って話し合ってみよう。



小数でわる計算もできるよになって、わり算の世界が広がったよ。



分数をかけたり、分数でわったりする計算もできるのかな。

6年で学習するよ。

3 下の筆算のしかたを説明しましょう。

これまでの筆算とちがうところは…



① $2.34 \div 3.9$ ② $1.8 \div 2.4$ ③ $8 \div 2.5$

$$\begin{array}{r} 0.6 \\ 3.9 \overline{) 2.34} \\ \underline{234} \\ 0 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 0.75 \\ 2.4 \overline{) 1.80} \\ \underline{168} \\ 120 \\ \underline{120} \\ 0 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 3.2 \\ 2.5 \overline{) 8.0} \\ \underline{75} \\ 50 \\ \underline{50} \\ 0 \end{array}$$

筆算のしかたを説明しよう。

①は、 $23 < 39$ だから、商の一の位に0を書き、小数点をうって…。



②は、0を書いて小数点をうった後、18を18.0と考えて…。



- 4 ① $5.04 \div 8.4$ ② $3.92 \div 5.6$ ③ $2.1 \div 2.5$
 ④ $1.17 \div 3.6$ ⑤ $6 \div 2.4$ ⑥ $42 \div 5.6$



わる数が整数になるように小数点をうつした後は、4年で学習した小数÷整数の筆算と同じだね。

4年

2 次の筆算はまちがっています。その理由を説明して、正しく計算しましょう。

①
$$\begin{array}{r} 12 \\ 6 \overline{) 79} \\ \underline{6} \\ 19 \\ \underline{12} \\ 7 \end{array}$$
 ②
$$\begin{array}{r} 290 \\ 3 \overline{) 627} \\ \underline{6} \\ 27 \\ \underline{27} \\ 0 \end{array}$$
 ③
$$\begin{array}{r} 801 \\ 4 \overline{) 324} \\ \underline{32} \\ 4 \\ \underline{4} \\ 0 \end{array}$$

わり算の筆算が正しくできるかな？

- ① 42ページ 2
 ② 46ページ 5
 ③ 47ページ 1

3年

5

次の筆算はまちがっています。その理由を
せつ明して、正しい答えをもとめましょう。

	3	0	9
-		6	4
	2	3	5



はると

一の位の計算で、
百の位からくり下げる
ひつようは…。

◀筆算のしかたが
わかるかな？

52ページ 3

2年

字じゅうの しあげー長さの たんい

つないでいこう **算数の目** ~大切な見方・考え方

ものの長さに ちゅう目し、たんいをつかって あらわす

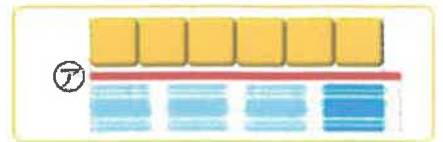
① みさきさんは、㊦の線の
長さを あらわすのに
こまっています。

みさきさんが こまっ
ているのは、どんな ことですか。
□ に あてはまる ことばを
答えましょう。



りく

1cmがいくつ分 あるかで
あらわせば いいね。



みさき

㊦の線の長さは、
ブロックではかると
6こ分とあと少し。
けしゴムではかると
4こ分。
長さを あらわす
□ が ちがう。

こまっ
ています。

「正解でなければ…」 「まちがったらどうしよう…」
「わからないっていけない…」

正解のみを扱う授業



困り（誤答・不安・迷い）を扱う授業

「分からなくてもちゃんと連れてってくれる」
「まちがっても、困っても大丈夫！」

【研究テーマ】

知りたい！話したい！できるようになりたい！
～気になるあの子ども前のめりになる授業～

【授業観】

正解だけ→困り・迷い

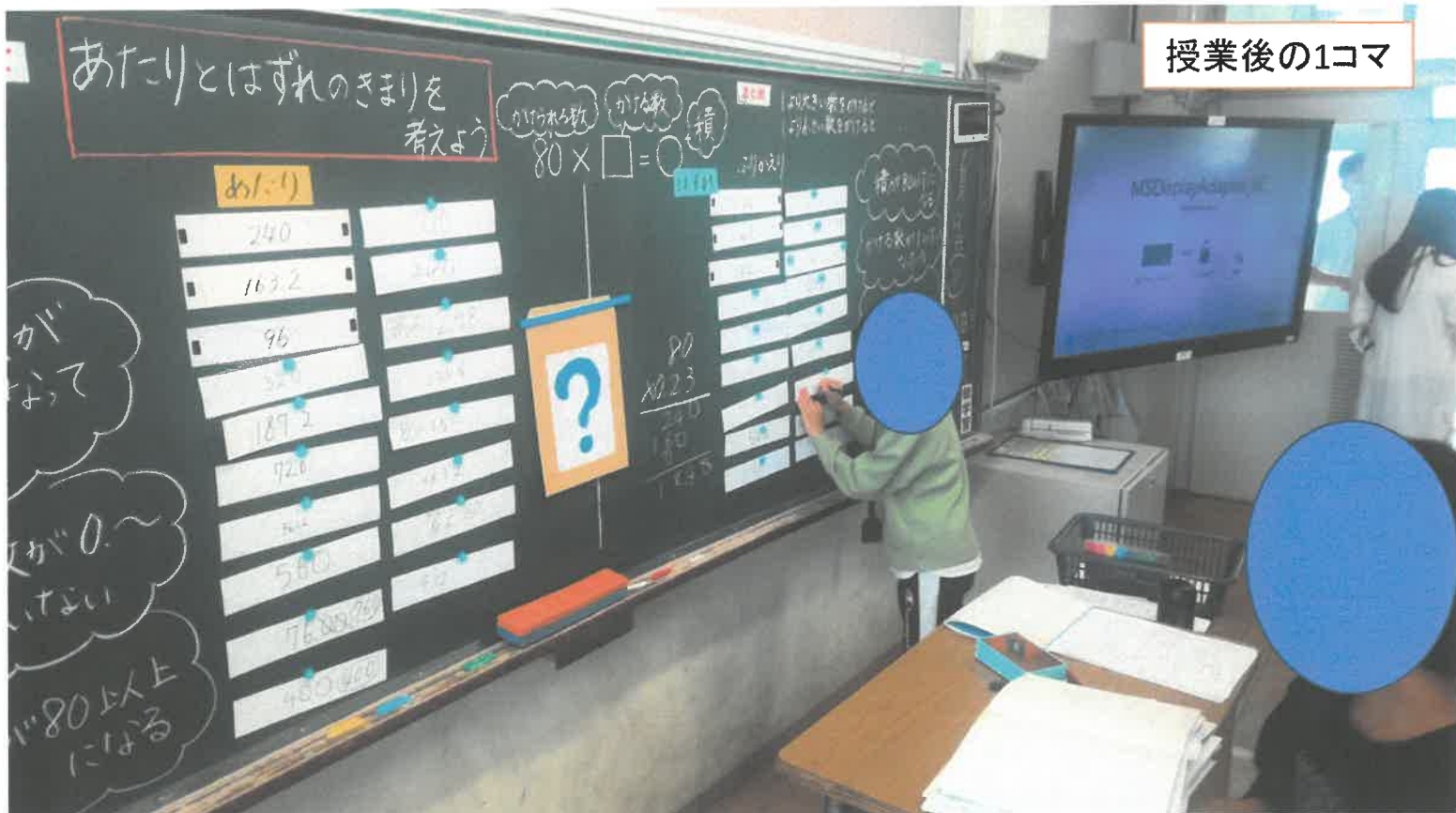
【言葉かけの視点】

- ・困りを出しやすくする
- ・努力・意欲を認める



余談ですが...

よい授業の条件って？



授業後の1コマ



授業後の1コマ



「知りたい」「話したい」「できるようになりたい」が生まれる
気になるあの子ども前のめりになる授業は…



がある授業
がない授業
な授業

気になるあの子ども輝く授業をデザインする

「しかける」「引き出す」「委ねる」「伴走する」

あの子が授業に参加できない時、それは能力の低さではなく、授業構成に高すぎる「ハードル(障壁)」があることが大半です。

気になるあの子ども自身が主体的に問い、動き、協力して学ぶ姿が現れるように意図的にデザインすることで、気になる子どものめりな変容を引き出します。

「教師が引っ張る」授業から「子どもと伴走する」「子どもに委ねる」の割合を多くした授業を進めていくことが大切なのかもしれません。





鎌田先生，宮崎先生，桂先生 授業ありがとうございました！



先生方，参観・協議会 お疲れ様でした！